

『掛け橋』 ～ 『学問的な責任』 & 『人間的な責任』 ～

『第 49 回がん哲学学校 in 神戸 メディカル・カフェ』(2023 年 7 月 29 日 神戸薬科大学 地域連携サテライトセンターに於いて)でのスタッフ (横山郁子先生と学生) との記念写真が 8 月 2 日送られて来た (画像)。大いに感動した。

8 月 1 日 筆者の故郷の『島根県 政策企画局 広聴広報課 県民対話室』から『遣島使』の名刺が送られて来た (添付)。【島根と全国の掛け橋『遣島使』】と謳われている。早速、【名刺、カッコイイですね。デザインすばらしいですね。さすが島根県。すぐに出雲大社だとわかります！そして『どこの島？』と思ったら『島根県』】とのユーモア溢れる心温まるメールが届いた。

【712 年に編纂された『古事記』に登場する、『医療の原点を教えてくれる大国主命』の出雲大社から、8 キロほど、峠を越えて美しい日本海に面した小さな村が、筆者の生まれ育った出雲市大社町鵜峠である。隣の鷺浦地区と合わせて、『鵜鷺(うさぎ)』と呼ばれている。713 年に編纂が命じられたという『出雲国風土記』にも登場する歴史ある地である。筆者の故郷は無医村であり、幼年期、熱を出しては母に背負われて、峠のトンネルを通過して、隣の村 (鷺浦) の診療所に行った体験が、今でも脳裏に焼き付いている。筆者は、人生 3 歳にして医者になろうと思ったようである。】との以前の文章が 今回 鮮明に思い出された。

出雲弁で無口な筆者は、臨床医でなく病理医になった。それが、『がん病理学』→『がん哲学』さらに、幼年期の田舎の診療所のイメージが重なり、『がん哲学外来』の提唱へと導かれた。まさに、『掛け橋』ではなかろうか！

『掛け橋の 2 つの使命』

- (1) 『学問的、科学的な責任』で、病気を診断・治療する→学者的な面
- (2) 『人間的な責任』で、手をさしのべる→患者と温かい人間としての関係

そして、筆者は代表として『がん哲学外来市民学会』(2012 年)、また理事長として『日本地域医療連携システム学会』(2016 年)&『日本 Medical Village 学会』(2016 年)の設立へと導かれた。『不思議な人生の非連続性の連続性』である！



島根と全国の掛け橋
遣島使
SHIMANE

出雲大社(出雲市)

順天堂大学名誉教授
新渡戸稲造記念センター長
恵泉女学園理事長

E-mail: chino@juntendo.ac.jp

樋野興夫

＼ 見せておトク！ 応募しておトク！ キャンペーン ／

詳しくはウラ面を▶